

Index

#001	四国遍路八十八ヶ所 香川・徳島 弘法大師空海の故郷を訪ねて	p.1
#002	[特別企画] 働く女性が語る PC業界の今日、そしてこれから	p.10
#003	[こんなところにPCが!] 福岡市動植物園センターゾーン エントランス複合施設	p.16
#004	[明日を築くプロジェクトの風景] 沖縄都市モノレール 浦添延長区間の開業について	p.18
#005	[研究・教育の現場から] 金沢大学 土木材料学研究室	p.22
#006	仕事場拝見	p.24
#007	[お天気雑記帳] 時の言葉	p.27
#008	PCニュース～北から南から～	p.28



表紙のイラスト／青雲橋
「四国遍路八十八ヶ所香川・徳島」弘法大師空海の故郷を訪ねて」で訪ねた、吉野川にかかる青雲橋をイラストに描いたものです。

広報誌の名称について

Prestressed Concrete 情報誌
PCプレス は、

コンクリート(C)にプレストレス(P)の力が作用した様子を表現したもので、「プレス」は定期刊行物を意味しております。

今はインターネットで、あらゆる情報を収集できる時代。それでも旅行代理店に足を運ぶのは、新しい旅先や情報を見つけるため。国内外のいろんなツアーのパンフレットやチラシは、旅行を計画するヒントになる。昼休みに近くの店舗に立ち寄ってみると、多くの人たちが賑わっていた。面白そうな旅はないかと探していたところ、隣から「四国遍路は、うるう年に逆打ちするのいい」と声が聞こえてきた。気になって調べてみると四国遍路のことがいろいろと分かってきた。

2020年は、醍醐天皇が空海に

弘法大師号を賜与されてから1100年の記念の年。四国遍路は、弘法大師が開設したと言われる四国88ヶ所の霊場をすべて巡ることを特に遍路と呼び、本来は追善供養、予修供養・修行であったというが、さらにうるう年には一番札所、二番札所と順番に回る「順打ち」ではなく、第八十八番から一番札所へと逆回りに巡礼する「逆打ち」をする。利益は三倍になる。ちなみに「打つ」とは札所を巡拝すること。昔は納め札を本堂の柱などに打ちつけていたことに由来。札所はお札を納める寺を指す。

四国遍路といえ、白衣と菅笠、金

剛杖などの身支度を整え、寺から寺へと歩いてお経を唱える修行のイメージ。何か月もかけて全行程を巡るのは難しいと思っていたが、2泊や3泊で巡るバスツアーなどが豊富にあることに驚く。どこから始めても、どこで終えても問題はなく、バスや電車、車を使い、自分の体力や都合に合わせて自由に設定してもいいそうだ。それなら週末を利用して行けるかも。香川県第八十八番札所から逆回りをし、途中で本場のうどんを食べ、翌日には徳島県の札所を巡るルートを思い描く。週末に大自然の中で心身を磨き、自分を見つめ直す旅へと出発することにした。

▲第八十八番・大窪寺の弘法大師像と大師堂
長い四国遍路の旅の締めくくりとなる結願寺(けしがんじ)。境内の大師堂の隣には巨大な大師像がそびえる。無事に巡礼を終えたお遍路たちの金剛杖が数多く奉納されている。



四国遍路八十八ヶ所
香川・徳島

弘法大師 空海の故郷を訪ねて

唐で学んだ真言密教を 日本に広めた弘法大師空海

金曜日の夜に羽田空港から高松空
港行きの飛行機に乗り、高松駅近く
のホテルに宿泊。翌日は晴天のなか、
早朝から旅をスタートした。

まず向かったのは、さぬき市の『おへん
ろ交流サロン』。第八十八番・大窪寺と
第八十七番・長尾寺の間に位置する
施設は、江戸時代の紀行本や古地図な

どを揃えた資料展示室、そしてお遍路
に訪れた人が気軽に立ち寄り交流ス
ペースがあり、資料も豊富に閲覧できた。

弘法大師空海（以下、弘法大師）は、
今から約1250年前、現在の香川
県善通寺市にて誕生。18歳で大学に
入学し、この頃誕生の地である四国
の阿波国大瀧が嶽や土佐国室戸崎な
どで厳しい修行を重ねた。

31歳で出家得度をするとともに、
理由は不明であるがその年の遣唐使



▲ 四国遍路八十八ヶ所

お遍路の始まりの地である阿波（徳島県）は「発心の道場」、続く土佐（高知県）は「修行の道場」、伊予（愛媛県）は極楽浄土へと至る「菩提の道場」、讃岐（香川県）は結願で悟りの境地を開く「涅槃の道場」と呼ばれる。

- | | |
|---------------|---------------|
| ① 第一番札所 霊山寺 | ⑥ 第八十三番札所 一宮寺 |
| ② 第二番札所 極楽寺 | ⑦ 第八十八番札所 大窪寺 |
| ③ 第三番札所 金泉寺 | ⑧ 第七十五番札所 善通寺 |
| ④ 第八十六番札所 志度寺 | ⑨ 第六十六番札所 雲辺寺 |
| ⑤ 第八十七番札所 長尾寺 | |

に最澄とともに留学僧として随行し、
入唐後、長安・青龍寺の恵果和尚か
ら真言密教のすべてを学び、帰国後
に真言密教という新しい仏教の教え
を広め、密教の奥義については最澄
も空海に教えを受けていたという。
その後、嵯峨天皇の勅許を得て和歌
山県高野山に金剛峯寺を開き、最澄
が開いた比叡山延暦寺とともに密教
の大本山となる。

四国遍路は、弘法大師が四国各地
で布教をしながら42歳のとき開創し
た88寺を巡礼することが始まりと伝
わっているが、室町時代末期に今の
形になったと言われている。江戸時
代になると、修行者だけでなく庶民
の間にも広まっていった。

四国遍路のはじまりといわれている
のが、「衛門三郎伝説」だ。伊予国の
有力豪族の一族に衛門三郎という長
者がいたが、強欲で人々に嫌われて
いた。ある日衛門三郎のところを訪
れた托鉢僧を何度となく追い返し鉢
を叩き割った。その後、息子が次々と
亡くなるという不幸に見舞われたが、
托鉢僧が弘法大師と知り懺悔の思い
に駆られすべてを捨てて四国巡礼に
出たが大師に会うことが叶わなかつ
た。そこで21回目から逆順に巡礼す
ると大師にようやく会うことができ
て過去の非を心から詫言じた。

この言い伝えが四国遍路の始まり

で、この年がうるう年であったこと
から逆打ちがうるう年に行われる所
以である。

交流サロンのテーブルの上を見る
とたくさんのお菓子が置いてあり、
四国にはお遍路さんに茶菓や食事、
宿を無償で提供する「お接待」とい
う文化が根づいていることがわかつた。
地元の人にとってお遍路さんは弘法

▼ 第八十八番・大窪寺

香川県と徳島県の県境に近い矢筈山の中腹に建つ札所。本尊である薬師如来像は、左手に薬壺ではなくホラ貝を持ち、人々の願いを聞いてくれると伝わる。





▲ 第八十七番・長尾寺
高松藩主・松平頼重によって建てられた本堂。本尊の聖観世音菩薩は、度重なる火災でも不思議と無事に残り、秘仏として祀られている。讃岐国七観音随一のもの。



▲ 第八十六番・志度寺
竜神に奪われた宝珠を取り返すため、志度寺を訪れた藤原不比等に代わって竜神と戦い、命を落とした『海女の玉取り伝説』が残る。海女の墓など、伝説にまつわる建物が建つ。

大師と同じであり、お接待は功德を得るとされている。また、「自分の代わりには遍路をしてほしい」という想いも込められている。そんなおもてなし文化の一端を感じながら第八十八番札所へと向かった。

巨大な大師像が見守る 結願寺に相応しい大窪寺

さぬき市には、第八十八番から第八十六番までの3つの札所がある。『おへんろ交流サロン』から、険しい山道を登ること15分。四国遍路の終着点、第八十

八番・大窪寺に到着した。「八十八番結願所」と書かれた大きな石碑。そして木造の二天門へと続く数十段の石段の周りには木立が生い茂り、長年の歴史と結願寺ならではの風貌が感じられる。大窪寺は奈良時代に行基が草庵を建てたのが始まり。その後、唐から戻った弘法大師が、薬師如来像を刻んで本尊にしたと伝わる。

まずは心を整えてから一札。門をくぐり、手水場で手と口を清め、鐘楼の鐘を撞く。仏様に到着を知らせる鐘の音は、静寂に包まれた境内に響きわたる。線香の香りに包まれた本堂へと歩

み、まずは納め札を奉納。賽銭を供え、合掌した後、経本を見ながら読経し、同じ手順で大師堂もお参りをする。慣れない作法に緊張しながらもひと通り参拝が終わり、ほっとして隣を見るとき巨大な弘法大師像が。今までの行動を見られていた気がして、恥ずかしくなった。逆打ちなので「いつてきます」と挨拶をし、札所を後にした。

地元で親しまれる長尾寺 見どころ満載の志度寺へ

大窪寺から第八十七番・長尾寺ま

では車で約30分。山道を下り、市街地を通った先の住宅街にそびえる。この地を訪れた行基が開創し、弘法大師が入唐前に年頭七夜の護摩祈祷を行い、帰国後には大願成就を感謝して「大日経」を二石に二字ずつ書写した供養塔を建立したと伝わる。この祈願に由来するお祭りや盆踊り、餅つきなどが行われ、地域の人たちの憩いの場として親しまれているそう。ちなみに静御前が出家した寺としても有名で、静御前剃髮塚にもそと手を合わせた。

そこから瀬戸内海方面へと北上すること15分。第八十六番・志度寺の大きな五重塔が見えてきた。車を降りると目の前には海が広がり、屋島や五剣山を臨む。

創建は625年の古刹だけあり、境内には仁王門や本堂、大師堂、五重塔など歴史を感じさせる建物が点在する。なかでも、昭和の名道家・重森三玲が手掛けた枯山水の無染庭がお勧めと聞いた。ようやく書院の裏側に見つけた庭は、京都の龍安寺を思わせる美しさと静寂さに包まれていた。

駐車場に戻ると、白衣に身を包み、本堂で熱心にお経を唱えていたお遍路さんの団体と出会った。「これで10回目。何度来ても気持ちがいいですよ」と楽しそうに笑顔で答える姿を見て、いい意味で四国遍路のイメージとのギャップを覚えた。



▲ 第八十三番・一宮寺
大宝年間(701~704年)に奈良仏教の礎を築いた義淵が創建した大宝院が前身。後に讃岐一の宮・田村神社が建てられ、神社の別当寺として一宮寺に改名された。



▲ 旧香川県立体育館
1964年、元塩田の埋め立て地に建てられた体育館は、1300人収容のアリーナとして様々なスポーツに利用されてきた。吊り構造の独創的な形状とそのスケールに圧倒される。



▲ 讃岐うどんとおでん
讃岐うどんは弘法大師が唐から小麦の栽培方法と製麺技術を伝えたのが始まりと言われている。おでんには味噌をつけて食べるのが香川風。

香川のうどん屋さんの常識 味噌つきおでんは人気メニュー

3つの札所を逆打ちで巡ったところで、高松市に向かうことにした。目的地は満濃池だが讃岐名物のうどんが食べたくて、車を走らせた。

市街地に入っていくと、船の形をした巨大オブジェを発見した。なんとこの建物は旧体育館。戦後から高度成長期にかけて多くの国家プロジェクトを手がけた建築家・丹下健三の作品で、同時に設計された国立代々木競技場と同じ吊り屋根構造を用いている。船の突き出た部分の強度不足を補うためにPC(プレストレスト・コンクリート)技術を使い、実現に至った。しかし、老朽化に伴い、2014年に閉館した。もうお昼過ぎ。本場のうどんを食べるため、地元の店に立ち寄った。セルフ式でメニューは釜揚げ、カレーに肉うどん

地域に伝わる地獄の釜の伝説と 讃岐七富士

と豊富で、かけうどんは190円。そしてなぜかおでん鍋がある。「うどん屋さんにおでん」は地元の常識のようだ。讃岐うどんはコシが強く、風味豊かなだしと二緒にのど越しで味わう。薄味のおでんも美味しく、これがワンコインで食べられると思うと得した気分になった。

このお店で、第八十三番・一宮寺いちのみやじには地獄の釜の伝説があると聞いたので寄ってみることにした。訪れてみると、頭を入れると境目が開けるといって小さな薬師如来を祀るほろ祠があり、「地獄の釜」と呼ばれているという。言い伝えでは、近所の意地悪なばあさんが試したところ、扉が閉まり、ゴォーッという地獄の釜が煮えたぎる音が聞こえ、頭が抜けなくなりました。怖くなっ

たばあさんが、今までの悪事を謝ると扉はすつと開き、それからは近所の人とも仲良く暮らしたそう。恐る恐る私も試してみると…するりと抜けました。めでたし、めでたし(笑)。

一宮寺をでて、弘法大師の業績として有名な満濃池に向かうために国道を走ることにした。北に瀬戸内海、南に四国山地を臨む壮大な景色が広がる。爽快に車を走らせていると、三角おにぎりのような小さな山々が目に留まった。後に調べてみると飯野山を代表とする7つの山は、讃岐七富士と呼ばれているそう。

日本最大級の規模を誇る 満濃池で多彩な絶景を楽しむ

唐に渡った弘法大師は、仏教を学ぶだけでなく、土木や建築、医学、文学など学んだ最先端の知識・技術や集め



▲ 満濃池
貯水量は1,540万㎡。本格的な田植えシーズン到来を告げるイベントとして、毎年6月中旬に「満濃池のゆる抜き」を実施。残したい日本の音風景100選にも選定されている。



▲ 第七十五番・善通寺
弘法大師の生誕の地。日本に戻って来た後に、父・佐伯善通より荘田を貰い受け、唐の青龍寺を模して建設し、父の名をとって善通寺とした。

た文献により社会のために才能を發揮した。道を開き、橋を架け、井戸を掘り、温泉の効用を教え、漢方医学の知識を授けたなどと伝えられている。

香川県琴平町にある灌漑用ため池として国内最大級の満濃池が初めて造成されたのは、今から1300年以上も前。豪雨による決壊の被害に遭い、何度も復旧を繰り返すなか、嵯峨天皇の時代に修築工事に起用されたのが弘法大師。大師の下に集まった大勢の人の協力を得て唐で学んだ知識・技術により水庄に対して有効なアーチ型の堤防を築くなど技術指導をし、わずか3カ月で工事を完成させたという。

満濃池はとにかく大きい。手を広げたような形の池の周囲は約20km。展望台からは穏やかな池の水面と澄み渡る青空、緑豊かな山々の雄大な風景を望み渡ることができる。そこから池のほとりに降りてみると、水辺に松の木がそびえ、風光明媚な景色が広がっていた。満濃池は、見る場所によっていろんな景色が楽しめる。特におすすめは、池の近くの高台にある

神野神社からの絶景。池全体を見下ろしながら、弘法大師の偉業を実感した。

**弘法大師生誕の地・善通寺
札所の最高峰にある雲辺寺へ**

満濃池から全国でも有名な観光地である金刀比羅宮を通って車で約30分。善通寺市は、弘法大師が生まれ育った地だ。第七十五番・善通寺は、和歌山の高野山、京都の東寺と並ぶ大師三大霊跡路のひとつで参拝客が絶えない。

境内は西院と東院の2つに分かれる。御影堂を中心とする西院は、弘法大師が生まれた佐伯家の邸宅跡に建てられた「誕生院」。もう一方の金堂や五重塔が建ち並ぶ東院は「伽藍」と呼ばれる。広大な境内には、歴史的な木造建築から昭和や平成時代に造られた新しい建築物までが点在し、まるでテーマパークのように広い。

早速、生誕の地と言われる御影堂へと向かう。建物の正面に下がっていた5色の御手綱について質問し、「これは大



▲ 雲辺寺ロープウェイと第六十六番・雲辺寺
ロープウェイは全長約2600m。かつて「遍路ころがし」と呼ばれていた標高差657mの急こう配を時速36kmで運転する。雲辺寺は、789年に弘法大師が善通寺の建立のため、木材を求めて山に登ったとき、深遠な霊山に心を打たれてお堂を造ったのが起源。

師さまと繋がっていますよ」と教えてもらおう。お堂の奥殿に秘蔵される瞬間の大師像は、弘法大師が入唐する際、母親のために池に映る姿を描いた自画像だと伝わる。御手綱を力強く握ると、母想いの優しい弘法大師の心に触れたような気がした。

善通寺市から観音寺市までは車で約40分。何とか雲辺寺ロープウェイの最終便に乗ることができた。四国山脈と瀬戸内海を見下ろす絶景は、旅気分を盛り上げる。

ガクンという大きな振動とともに山頂駅に到着。そこから続く参道は、杉の木が林立する起伏のある山道で、お釈迦様の弟子と言われる等身大の五百羅漢像が建ち並んでいた。名前のとおり、その数は500体。その表情や仕草は一つひとつ異なり、泣いたり、怒ったり、驚いたり、その豊かでコミカルな姿が微笑ましい。

境内にもユニークなものを見つけた。本堂の横には、なすのヘタまでリアルに表現した石「おたのみなす」と「くぐつて腰掛ければ、ご利益倍増」の看板が。おたのみなすの前には、大量の「ねがいごと札」が貼られた石の輪が建っていた。たくさんのご利益を願う、山頂駅に向かうと雲辺寺の隣にあるゲレンデでボードを楽しんだ若者たちに遭遇。最後まで発見の多い札所だった。



▲ 青雲橋
単径間PC複合トラス橋、橋長97.0m、2004年竣工。

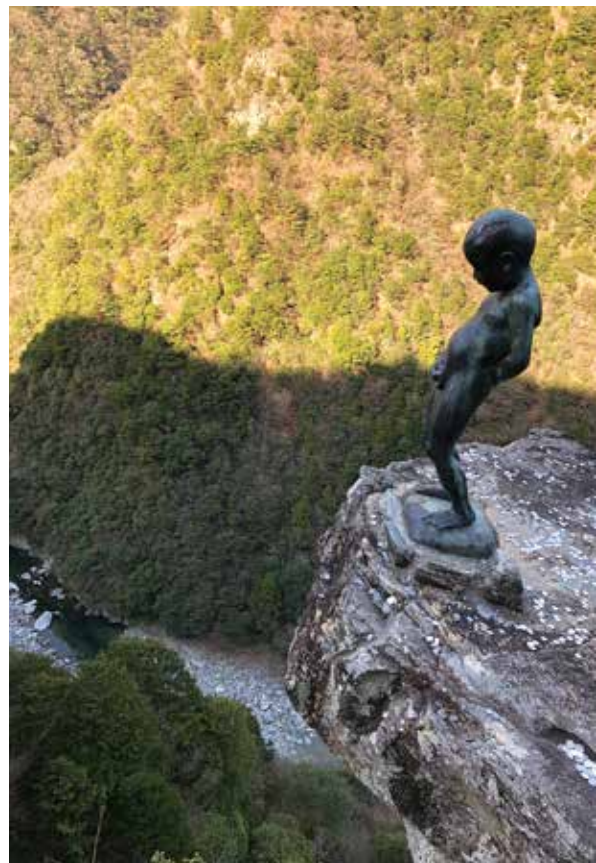


▲ 祖谷のかずら橋
日本三奇橋のひとつ、国の指定重要有形民俗文化財。平家伝説ゆかりの橋は長さ45m・幅2m・水面からの高さ14m。3年毎に架け替えが行われている。

◀ 大歩危峡
大股で歩いてても危険という意味から地名がついたと伝わる。大渓谷は、およそ2億年前に海底の奥深くにつくられた地層が、隆起と吉野川の浸食で地表に姿を現したものだ。

▼ 祖谷溪の小便小僧
強風が吹きつける高さ約200mの断崖に、その昔、子どもたちや旅人が度胸試しをしたという逸話を由来に、1968年に銅像が造られた。紅葉の名所としても有名。

**スリル満点のかずら橋
断崖絶壁に建つ小便小僧**



雲辺寺から南下して徳島県三次市に入り、山々に囲まれた秘境・大歩危おほほしに宿泊、2日目の朝も快晴に恵まれた。吉野川に沿って広がる約8kmの大渓谷は、2億年の歳月がつくりあげたジオパークで、国の天然記念物に指定されている。さらに、車で十数分先の祖谷エリアも祖谷溪と祖谷川の大断崖を臨む絶景スポット。なかでも有名なかずら橋は、平家の落人が追っ手から逃れるため、いつでも切り落とせるように、かずらという植物で架けた橋だと伝わる。その構造は明石海峡大橋と同じ吊り橋構造で、その原型が数百年前に造られていたことに驚く。

どっしりと構えた橋は、一見危険そうには感じないが、実際に渡って

みると、橋床の木と木の間隔が広くて谷底が丸見え！手すりにつかまらず、橋が揺れないようにそつと歩く。写真を撮る余裕はなく、スリルと吹きつく風に凍え、宿でもらったカイロの温かさが体にしみた。

祖谷にはもうひとつ、話題のスポットがある。かずら橋から祖谷溪沿いの狭い山道を走り続けると、断崖絶壁に小便小僧を見つけた。どうしたらインスタ映えるのか、いろんな角度から体乗りに出して撮影。熱中するあまり、「忘れ物ですよ」とバッグを手渡された(笑)。

**多彩な橋が架かる吉野川は
全国有数の「橋の博物館」**

高知県と徳島県を流れる延長194kmの吉野川は、川の長さこそ四万十川よりわずかに短いですが実質的に四国随



▲ 池田へそつ湖大橋

5径間連続バランスドアーチ橋、橋長705.0m、幅員10.4m、1994年竣工。土木学会 田中賞・デザイン賞優秀賞、プレストレストコンクリート技術協会賞の受賞歴を持つ。

一の大河。昔から水害の多い日本三大暴れ川のひとつに数えられ、坂東太郎(利根川)、筑紫二郎(筑後川)、四国三郎(吉野川)の三兄弟の愛称で呼ばれている。さらに橋が多いことでも有名で、徳島県では昭和初期から約90年の間に46もの橋が架けられた。当時の最新工法を活用した多種多様な橋を見られることから、「橋の博物館」という異名がついている。

オレンジ色の鋼材が目を引く青雲橋は国際的な賞(fib賞)の最優秀賞をアジアで初めて受賞した。急峻な峡谷に架かるため、下から支えるような支保工は組み立てられず、PCケーブルを張り渡し、その上にプレキャスト部材によるユニットを載せて橋をつくっていったという珍しい構造だという。これまで歩道はあったが、車道の橋は世界初のようなのだ。

徳島自動車道の池田へそつ湖大橋は、土木学会の田中賞やデザイン賞優秀賞などの受賞歴を持つ。最大支間は200m。逆ランガー形式のコンクリートアーチ橋としては、日本で最も長いそうだ。大きな弧を描くアーチが優美な作品は、地域のランドマークとしての存在感を放つ。また、橋の下には吉野川(池田湖)とJR土讃線、国道32号が通過するため、川の区間はアーチ状のPC逆ランガー、国道とJRの区間はシンプル



▲ 脇町うだつの町並み

吉野川の水運に恵まれ、栄えた地。長さ400mのメイン通りには、歴史的建築物が84軒残り、当時の歴史や文化を今に伝える。藍をはじめとする土産店や飲食店も軒を連ねる。

なPC箱桁ラーメン構造という異なる構造を組み合わせているが、それを感じさせない一体感がある。最も印象的だったのは、脇町潜水橋だ。川面からわずか1~2mに架けられた橋は、高欄がなく、増水時には水が橋の上を流れ、橋が沈んでしまう。交互通行で車一台しか通れないほど車道の狭い素朴な橋は、のどかな自然風景に程よく馴染む。吉野川は全国的にも珍しい夕日が沈む川で、夕日の名所として知られているそうだ。

▼ 脇町潜水橋

長さ207m・幅3.6mと狭いが、1961年に建設されて以来、地元の人たちの通勤や通学、買い物に利用されてきた生活橋。風情ある情景として親しまれる写真愛好家の人気スポット。



発願寺である靈山寺で 「同行二人」の精神に触れる

第三番・金泉寺までは徳島自動車道を利用した。美馬ICから藍住ICを経由して車で約40分。のどかな町並みにあり、第二番・第一番札所は、車で十数分圏内に位置する。

色鮮やかな朱塗りの仁王門が印象的な金泉寺は、行基が寺塔を建立して「金光明寺」と命名。その後、弘法大師が水不足に苦しむ人々のために黄金の霊水の湧く井戸を掘りあてたことから、現在の寺名になった。その井戸は今も残り、顔を覗き込んで水面

にはつきりと映れば長寿、ぼやけると短命という伝説がある。

長寿を確信したところで、第二番・極楽寺。境内には松などの樹木を絶妙に配した極楽浄土を思わせる美しい日本庭園が広がる。さらに奥へと足を運ぶと、弘法大師がお手植えしたと伝わる樹齢1200年の長寿杉がそびえていた。高さ約31m、周囲は約6m。大地にしつかりと根を張り、風雪に耐えてきた生命力は逞しく、無限のエネルギーを発している。その巨木に結ばれた紅白の紐を握ると霊氣を受けられると知り、「家族や友人も健康で長生きできますように」

と願いを込めた。

そして、今回の旅の最後となる第一番・靈山寺。地域の人たちに「番さん」と呼び親しまれる寺の界限は、お遍路さんや参拝客で賑わっていた。「四国第一番霊場」と書かれた仁王門をはじめ、本堂や大師堂、多宝塔などの木造建築物は、長い歴史と風格が感じられる。門をくぐると境内は想像以上に広い。池を中心とした自然美溢れる池泉庭園には、門から真つすぐに延びる橋が架かり、その先に本堂がそびえる。天井に描かれた龍の姿と無数の提灯の灯りが幻想的な堂内で、姿勢を正して最後のお経を読んだ。四

国遍路の旅は、「同行二人」と言われ、一人であっても常に弘法大師が、一緒に歩んでくれるという。今まさに向き合い、話しかけてみると、弘法大師の声が聞こえるような気がした。真言密教の中で弘法大師が生涯を掛けて伝えてきた「即身成仏」。すべての人間の中には仏と同じ資質があり、修行によって本来の姿に立ち返ることができるといふ教えを説き、一人ひとりが努力することを勧めた。他力本願ではなく、強い意志と目的を持って行動し、多くの人たちの幸せに繋げたい。そして、いつか四国遍路八十八ヶ所を制覇したいと思った。



▲ 第三番・金泉寺
源平合戦のとき、源義経が寺に立ち寄り、戦勝開運の祈願をしたと伝わる。境内には、義経が弁慶の力試しに持ち上げさせたと伝わる弁慶石が祀られている。



▲ 第二番・極楽寺
37日間の修法をした弘法大師が、発願の日に現れた阿彌陀如来を彫像して本尊とした。その像の発する光は、鳴門の長原沖まで達したという故事から「日照山・極楽寺」と命名。



▲ 第一番・靈山寺
仏教を説く老師を多くの僧侶が囲んで熱心に聞く光景が、天竺(インド)の靈山で釈迦が説法する光景に似ていたことから、弘法大師が「竺和山・靈山寺」と名付け、発願寺とした。

弘法大師空海の 故郷を訪ねて 香川・徳島 旅MAP



ふれあい橋



池田へそっ湖大橋



脇町潜水橋



名田橋



青雲橋



美馬中央橋



高瀬橋

